



本 国 特 許 庁
JAPAN PATENT OFFICE

09/901,548

01405/LH

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office

出 願 年 月 日

Date of Application:

2001年 7月 4日

出 願 番 号

Application Number:

特願2001-203058

出 願 人

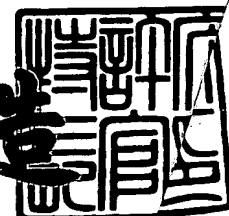
Applicant(s):

オリンパス光学工業株式会社

2001年 7月27日

特 許 庁 長 官
Commissioner,
Japan Patent Office

及 川 耕 造



出証番号 出証特2001-3065186

【書類名】 特許願

【整理番号】 A000006851

【提出日】 平成13年 7月 4日

【あて先】 特許庁長官 殿

【国際特許分類】 G02B 21/24

【発明の名称】 顕微鏡焦準装置

【請求項の数】 5

【発明者】

【住所又は居所】 東京都渋谷区幡ヶ谷 2 丁目 4 3 番 2 号 オリンパス光学
工業株式会社内

【氏名】 宇津木 裕徳

【特許出願人】

【識別番号】 000000376

【氏名又は名称】 オリンパス光学工業株式会社

【代理人】

【識別番号】 100058479

【弁理士】

【氏名又は名称】 鈴江 武彦

【電話番号】 03-3502-3181

【選任した代理人】

【識別番号】 100084618

【弁理士】

【氏名又は名称】 村松 貞男

【選任した代理人】

【識別番号】 100068814

【弁理士】

【氏名又は名称】 坪井 淳

【選任した代理人】

【識別番号】 100091351

【弁理士】

【氏名又は名称】 河野 哲

【選任した代理人】

【識別番号】 100100952

【弁理士】

【氏名又は名称】 風間 鉄也

【先の出願に基づく優先権主張】

【出願番号】 特願2000-208998

【出願日】 平成12年 7月10日

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 011567

【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【包括委任状番号】 0010297

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 顕微鏡焦準装置

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

投光装置と、対物レンズと、鏡筒と、これら全てを保持するホルダと、直線的に上下動する焦準移動部を備えた焦準本体と、前記焦準移動部に形成され前記ホルダを固定するための取付け部と、備え、

前記ホルダは、前記投光装置を支持する第 1 の支持部を観察光軸の軸上に備えた第 1 のホルダ及び前記投光装置を支持する第 2 の支持部を前記観察光軸の軸外に備えた第 2 のホルダの一方を選択的に前記取付け部に取付け可能とした顕微鏡焦準装置。

【請求項 2】

前記ホルダと前記焦準移動部は、各々が取付け面を有し、前記各取付け面に対してそれぞれ垂直な各壁面同士による当て付けにより位置決めされ、組付けられる請求項 1 に記載の顕微鏡焦準装置。

【請求項 3】

前記ホルダと前記焦準本体の間に弾性部材を備え、

前記弾性部材は、前記ホルダにかかる荷重に応じて選択的に着脱可能とした請求項 1 に記載の顕微鏡焦準装置。

【請求項 4】

前記焦準本体は、ガイド部と焦準ハンドル本体に分離され、

前記ガイド部を選択可能とした請求項 1 に記載の顕微鏡焦準装置。

【請求項 5】

前記ガイド部と前記焦準ハンドル本体の間に中間ギヤ部を着脱可能に設けた請求項 4 に記載の顕微鏡焦準装置。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は、標本を照明する投光装置を備えた顕微鏡を上下動させ、標本に焦点

を合わせるための顕微鏡焦準装置に関する。

【 0 0 0 2 】

【従来の技術】

従来例として、USP 4, 729, 646に顕微鏡焦準装置が開示されている。この装置は、開口部に設けられた止め具によって顕微鏡を保持する直線的に移動可能な顕微鏡ホルダと、固定ネジで前記ホルダを支持し、直線的に移動自在なスライド部材と、前記スライド部材を保持するコラムを有する焦準本体とからなる顕微鏡支持用モジュール式装置である。この装置において、構成される主要部品は押出加工品から形成され、前記コラムに対して付属ユニットを安価に装着できるものである。

【 0 0 0 3 】

また、USP 4, 565, 427に開示されている装置は、焦準用の伝動装置とステージホルダとの間に配置された付加的な伝動装置を用いて、顕微鏡を予め決められた位置に迅速に調整するためのものである。この伝動装置は、焦準ハンドルに対して別に設けられた補助ハンドルにより、ステージホルダ内に配置された偏心体を回転させ、所定の高さだけステージが上昇・下降する仕組みをなしている。

【 0 0 0 4 】

【発明が解決しようとする課題】

製造工場等における装置に顕微鏡を組込んで使用する場合、USP 4, 729, 646に示されるようなモジュール式の焦準装置では、顕微鏡ホルダが開口型であるため、取付ける顕微鏡の形状がその開口形状に制限される。

【 0 0 0 5 】

標本を照明する投光装置を備えた顕微鏡は、一般的に標本を搭載するステージと標本に焦点を合わせる焦準機構とを有する顕微鏡フレームに取付ける仕様になっているため、上記顕微鏡ホルダのような開口部に取付けられる形状をなしていない。例えば、比較的軽い投光装置は丸アリで固定する方式を採用し、重い投光装置は丸アリ方式では剛性が不十分であるため、ボルト固定方式等を採用している。

【0006】

また、顕微鏡の重さが大きく異なり、焦準本体にその能力範囲以外の荷重が加わると、顕微鏡は自然降下して標本に焦点を合わせることができなくなる。

【0007】

さらに前記顕微鏡の重心位置は焦準本体の焦準移動軸と同軸ではないため、焦準本体のガイド部には、移動軸方向の荷重以外にモーメントが付加される。前記顕微鏡の重心位置と重さが大きく異なりガイドの許容剛性を超えるモーメントが加わると、像ブレが生じ、快適な観察像を得ることができなくなる。

【0008】

一方、USP 4, 565, 427に示される付加的な伝動装置は、補助ハンドルを使用して一定量の高さを迅速に上下動させるものであり、焦準ハンドルの減速比を選択できるものではない。

【0009】

これらは、いずれも顕微鏡焦準装置の専用化や別の焦準ハンドル装置を付加することによる対応であった。また、上記顕微鏡ホルダは、スライドアリによる嵌合によりスライド部材に挿入し固定するため、前記スライド部材に対して円滑に組付けるためには、高精度なスライドアリ加工を要する。

【0010】

本発明の目的は、取付ける顕微鏡に対して幅広く安価に対応できる顕微鏡焦準装置を提供することにある。

【0011】

【課題を解決するための手段】

課題を解決し目的を達成するために、本発明の顕微鏡焦準装置は以下の如く構成されている。

【0012】

(1) 本発明の顕微鏡焦準装置は、投光装置と、対物レンズと、鏡筒と、これら全てを保持するホルダと、直線的に上下動する焦準移動部を備えた焦準本体と、前記焦準移動部に形成され前記ホルダを固定するための取付け部と、備え、前記ホルダは、前記投光装置を支持する第1の支持部を観察光軸の軸上に備えた第

1 のホルダ及び前記投光装置を支持する第 2 の支持部を前記観察光軸の軸外に備えた第 2 のホルダの一方を選択的に前記取付け部に取り付け可能とした。

【 0 0 1 3 】

(2) 本発明の顕微鏡焦準装置は上記 (1) に記載の装置であり、かつ前記ホルダと前記焦準移動部は、各々が取付け面を有し、前記各取付け面に対してそれぞれ垂直な各壁面同士による当て付けにより位置決めされ、組付けられる。

【 0 0 1 4 】

(3) 本発明の顕微鏡焦準装置は上記 (1) に記載の装置であり、かつ前記ホルダと前記焦準本体の間に弾性部材を備え、前記弾性部材は、前記ホルダにかかる荷重に応じて選択的に着脱可能とした。

【 0 0 1 5 】

(4) 本発明の顕微鏡焦準装置は上記 (1) に記載の装置であり、かつ前記焦準本体は、ガイド部と焦準ハンドル本体に分離され、前記ガイド部を選択可能とした。

【 0 0 1 6 】

(5) 本発明の顕微鏡焦準装置は上記 (1) に記載の装置であり、かつ前記ガイド部と前記焦準ハンドル本体の間に中間ギヤ部を着脱可能に設けた。

【 0 0 1 7 】

上記手段を講じた結果、それぞれ以下のような作用を奏する。

【 0 0 1 8 】

(1) 本発明の顕微鏡焦準装置によれば、ホルダをユニット化して焦準本体に容易に取り付け、取外しをすることができるため、前記焦準本体を専用化またはコストアップすることなく、取付け形状の異なる投光装置を組付けることができる。また、前記ホルダの大きさ、長さを変化させることで、顕微鏡焦準装置をスタンドあるいは組付け装置に固定した状態のまま、光軸位置を要求に応じて変えることもできる。

【 0 0 1 9 】

(2) 本発明の顕微鏡焦準装置によれば、容易に位置決めが行なえ、また上述した従来のスライドアリ加工を必要とせず、安価に対応できる。

【 0 0 2 0 】

(3) 本発明の顕微鏡焦準装置によれば、ホルダに重量バランスを保つための弾性部材を後付けユニットとして組付けることで、顕微鏡の重さが大きく異なる場合においても、焦準移動方向に加わる荷重をその能力にあった最適な荷重に調整することができる。

【 0 0 2 1 】

(4) 本発明の顕微鏡焦準装置によれば、ガイド部を前記焦準ハンドル本体に対して着脱自在にすることで、顕微鏡の重さと重心位置が大きく異なる場合においても、ガイド部に加わるモーメントの大きさに応じて、剛性の異なるガイド部を選択して対応することができる。また、ガイド部はホルダと別体であるため、安価に製作できる。

【 0 0 2 2 】

(5) 本発明の顕微鏡焦準装置によれば、ガイド部と焦準ハンドル本体の間に中間ギヤを後付けユニットとして組み込むことにより、焦準ハンドルの減速比を選択することができる。ガイド部と焦準ハンドル本体は別体で、独立しているため、容易な構造で安価に中間ギヤを挿入することができる。

【 0 0 2 3 】

【発明の実施の形態】

以下、本発明の実施の形態について図面を参照して説明する。

【 0 0 2 4 】

(第1の実施の形態)

図1、図2は本発明の第1の実施の形態に係る顕微鏡焦準装置の概略構成を示す図であり、図1は側面図、図2は正面図である。

【 0 0 2 5 】

この顕微鏡焦準装置は、顕微鏡1とこの顕微鏡1（例えば鏡筒部）を支持する顕微鏡ホルダ20を上下動させ、標本70に焦点を合わせる焦準本体10を有する。焦準本体10は、顕微鏡ホルダ20を上下動操作させるための焦準ハンドル16を有し、スタンド90に設けられたボール90aに止め具18で固定されている。

【0026】

顕微鏡ホルダ20の下面部には複数の対物レンズ50を保持するレボルバ60が取付けられている。対物レンズ50を取付けるレボルバ60は回転自在であり、このレボルバ60を回転位置決めすることにより、所定の倍率の対物レンズ50を光軸（観察光軸）L上に配置できるようになっている。

【0027】

一方、顕微鏡ホルダ20の上面部には、標本70に照明光を投光するための投光装置40が取付けられている。投光装置40の端部にはランプ光源42が設けられ、このランプ光源42は電源ケーブル44を介して電源部45に接続されている。

【0028】

ランプ光源42から発した照明光は、投光装置40内のハーフミラー43によりその方向を下向きに変え、顕微鏡ホルダ20、レボルバ60、対物レンズ50を介して、標本70を照射するようになっている。標本70の観察像は、対物レンズ50を介して、投光装置40の上部に取付けられた観察鏡筒80に入射し、接眼レンズ81を通して観察される。

【0029】

図3は、焦準本体10の上側から見た概略断面図及び顕微鏡ホルダ20の取付け部形状を示す図である。

【0030】

焦準移動部11は、顕微鏡ホルダ20を取付けるための取付け面11aとネジ穴11b、11b、及び取付けの位置決めをおこなう凹状の位置決め部11cを有する。

【0031】

焦準移動部11の両側面部には、焦準本体枠12のガイド溝12a、12aに挟まれ、ガイド溝12a、12aに添って移動可能な円筒状のコロ13、13と接する面11d、11dが形成され、取付け面11aの反対側にはラック11eが構成されている。

【0032】

ラック 11 e は、ハンドル回転軸部 14 に設けられたピニオン 14 a と噛み合っており、ハンドル回転軸部 14 におけるピニオン 14 a の回転に伴って、焦準移動部 11 がガイド溝 12 a, 12 a に添って直線的に上下動する。

【0033】

ハンドル回転軸部 14 は、ピニオン 14 a を形成しているピニオン軸 14 b、粗動回転軸 14 c、微動回転軸 14 d、及びピニオン軸 14 b を支える回転支持枠 14 e から構成され、回転支持枠 14 e は焦準本体枠 12 にビス 15, 15 にて固定される。

【0034】

一般的に公知であるため図示はしていないが、粗動回転軸 14 c はピニオン軸 14 b と連結しており、粗動回転軸 14 c には粗動ハンドル 16 a が固定されている。また、微動回転軸 14 d は減速ギヤを介してピニオン軸 14 b と連結しており、微動回転軸 14 d には微動ハンドル 16 b が固定されている。

【0035】

このような構成により、粗動ハンドル 16 a を回転させるとピニオン軸 14 b が回転し、微動ハンドル 16 b を回転させると減速ギヤを介して同様にピニオン軸 14 b が回転するため、焦準移動部 11 が前述のように上下動する。

【0036】

粗動力量調整ハンドル 17 は回転支持枠 14 e にねじ込まれている。このハンドル 17 を回転させてバネ 17 a を伸縮させることにより、粗動ハンドル 16 a 部を押付けるパッド 17 b の力を変化させ、粗動ハンドル 16 a の力量を調整する。

【0037】

粗動ハンドル 16 a の力量調整は、顕微鏡ホルダ 20, 21 (図 6 参照) 及び積載荷重に対する自然降下を防ぐためのものである。また、焦準本体 10 は、スタンド 90 (図 1 参照) に設けられたボール 90 a に取付けるための穴 12 b、止め具 18、及び板バネ 12 c を備えている。止め具 18 をねじ穴 12 d にねじ込むことで、穴 12 b に挿通されたボール 90 a に板バネ 12 c を押付け、焦準本体 10 を固定させる。

【 0 0 3 8 】

図 4 は顕微鏡ホルダ 2 0 の概略側断面図、図 5 は顕微鏡ホルダ 2 0 と焦準本体 1 0 及び投光装置 4 0 との組付け状態を示す図である。

【 0 0 3 9 】

顕微鏡ホルダ 2 0 は焦準移動部 1 1 に組付けるための取付け面 2 0 a 及び固定用穴 2 0 b と、位置決めを行なうための位置決め部 2 0 c を有する。

【 0 0 4 0 】

顕微鏡ホルダ 2 0 と焦準本体 1 0 の組付けは、焦準本体 1 0 の焦準移動部 1 1 に設けられた取付け面 1 1 a と顕微鏡ホルダ 2 0 の取付け面 2 0 a とを接触させ、焦準移動部 1 1 の各ネジ穴 1 1 b と顕微鏡ホルダ 2 0 の各固定用穴 2 0 b を使用して四つの各ボルト 2 2 (図 5 参照) で固定をする。

【 0 0 4 1 】

顕微鏡ホルダ 2 0 の上下左右方向の取付け位置決めは、焦準移動部 1 1 に設けられた取付け面 1 1 a に対して垂直な壁面 1 1 c 1, 1 1 c 2 で構成される凹形状の位置決め部 1 1 c に、顕微鏡ホルダ 2 0 に設けられた取付け面 2 0 a に対して垂直な壁面 2 0 c 1, 2 0 c 2 で構成される凸形状の位置決め部 2 0 c を挿入して、当て付けることで行なう。

【 0 0 4 2 】

図 4 において、顕微鏡ホルダ 2 0 の位置決め部 2 0 c は取付け面 2 0 a に対して突出しているが、焦準移動部 1 1 (図 5 参照) に設けられた位置決め部 1 1 c を取付け面 1 1 a に対して突出させ、顕微鏡ホルダ 2 0 の位置決め部 2 0 c を取付け面 2 0 a に対して凹ませるよう構成することも可能である。

【 0 0 4 3 】

顕微鏡ホルダ 2 0 の上面部には丸アリ固定式の投光装置 4 0 を取付けるための丸メスアリ 2 0 d が形成されている。この丸メスアリ 2 0 d の中心によって定まる光軸 L の左右方向の位置は、顕微鏡ホルダ 2 0 を焦準本体 1 0 に組み付けた時に、焦準本体 1 0 に設けられた左右のガイド溝 1 2 a, 1 2 a 間の中心 C (図 3 参照) と一致している。

【 0 0 4 4 】

投光装置 4 0 は、投光装置 4 0 に形成された丸オスアリ 4 0 a が顕微鏡ホルダ 2 0 の丸メスアリ 2 0 d に組付き、顕微鏡ホルダ 2 0 に設けられたネジ穴 2 0 e にクランプビス 2 0 f をねじ込むことにより確実に位置決めされ、固定される。

【 0 0 4 5 】

顕微鏡ホルダ 2 0 の下面部には、複数の対物レンズ 5 0 を保持するレボルバ 6 0 を取付けるためのスライドメスアリ 2 0 g が形成されている。レボルバ 6 0 の背面部に形成されたスライドオスアリ 6 0 a が顕微鏡ホルダ 2 0 のスライドメスアリ 2 0 g に挿入され、顕微鏡ホルダ 2 0 下面部に設けられた突起 2 0 h (図 4 参照) により、丸メスアリ 2 0 d によって定まる光軸 L 上にレボルバ 6 0 が正確に位置決めされる。

【 0 0 4 6 】

また、顕微鏡ホルダ 2 0 のスライドメスアリ 2 0 g の側面部には、レボルバ 6 0 を固定するためのネジ穴 2 0 i が設けられており、このネジ穴 2 0 i にクランプビス 2 0 j をねじ込むことにより、レボルバ 6 0 が確実に固定される。

【 0 0 4 7 】

図 6 は、上記第 1 の実施の形態の変形例に係る顕微鏡焦準装置における顕微鏡ホルダ 2 1 と投光装置 4 1 との組付け状態を示す図である。

【 0 0 4 8 】

この変形例では、上記投光装置 4 0 に比べて重いボルト固定式の投光装置 4 1 を用いている。図 6 に示すように、投光装置 4 1 を焦準本体 1 0 (図 5 参照) に組付けるために、顕微鏡ホルダ 2 1 は、投光装置 4 1 を固定するための取付け面 2 1 a、2 1 a と複数のネジ穴 2 1 b、及び投光装置 4 1 の位置決めを行なうための位置決め部 2 1 c を有する。

【 0 0 4 9 】

位置決め部 2 1 c は、投光装置 4 1 の側面 4 1 a と接することで図 6 の前後方向の位置決めができる接触部 2 1 d と、投光装置 4 1 の底面部に設けられた壁面 4 1 b と接触して左右方向の位置決めを行なう突起部 2 1 e から構成されている。これにより、投光装置 4 1 の光軸 L の位置は、焦準本体 1 0 の左右のガイド溝 1 2 a、1 2 a 間の中心 C に対して所定の位置に設定することができる。

【 0 0 5 0 】

なお変形例として、突起部 2 1 e を三角柱状とし、その斜面が接触部 2 1 d の長手方向に対して 4 5° をなすよう構成することで、図 6 の右方向から顕微鏡ホルダ 2 1 に導かれた投光装置 4 1 は、突起部 2 1 e にて接触部 2 1 d 側に案内されて、位置決めされる。

【 0 0 5 1 】

投光装置 4 1 の顕微鏡ホルダ 2 1 への組付けは、投光装置 4 1 の四つの固定用ザグリ 4 1 c と顕微鏡ホルダ 2 1 の四つのネジ穴 2 1 b とを用いて各ボルト 2 3 により固定することで行なえ、位置決めは上記に示した構成とすることで容易に行なえる。

【 0 0 5 2 】

顕微鏡ホルダ 2 1 の焦準本体 1 0 への取付けは図 6 に示されていないが、顕微鏡ホルダ 2 1 の取付け部は上記顕微鏡ホルダ 2 0 と同様の構造をなしており、その取付け方法は同一である。また、投光装置 4 1 の底面部の光軸 L 部には、上記レボルバ 6 0 が直接取付けられる。このため、図 6 には示されていないが、投光装置 4 1 の底面部の光軸 L 部に、顕微鏡ホルダ 2 0 と同様のスライドメスアリ、位置決め用突起、及びクランプビス用ネジ穴が形成され、これによりレボルバ 6 0 が確実に固定されている。

【 0 0 5 3 】

以上のように本第 1 の実施の形態の顕微鏡焦準装置によれば、投光装置 4 0, 4 1 を備えた顕微鏡を支持する顕微鏡ホルダ 2 0, 2 1 を焦準本体 1 0 に着脱することにより、顕微鏡の取付け形状に応じて焦準本体 1 0 を専用化することなく、容易に組付けることができる。

【 0 0 5 4 】

このため、取付け形状の異なる顕微鏡においても、その形状に応じて顕微鏡ホルダ 2 0, 2 1 を選択することで同一の顕微鏡焦準装置にて対応可能になるため、複数の顕微鏡焦準装置を所有する必要がなく、安価で対応でき、さらに、長さ及び大きさの異なる顕微鏡ホルダを選択することで、上記顕微鏡の光軸 L の位置を容易に変化させることもできる。

【 0 0 5 5 】

顕微鏡ホルダ 2 0 は、前述したように光軸 L が焦準本体 1 0 のガイド溝 1 2 a , 1 2 a 間の中心 C と一致しているため、スペースを取らず、コンパクトな顕微鏡システムに適している。一方、顕微鏡ホルダ 2 1 は顕微鏡を汎用性のある壁面で支持するため、幅広いシステムに対応できる。

【 0 0 5 6 】

焦準本体 1 0 と顕微鏡ホルダ 2 0 , 2 1 は共に独立しており、焦準本体 1 0 は取付ける顕微鏡の種類に関わらないため、焦準本体 1 0 自体のコストアップは生じない。

【 0 0 5 7 】

また、顕微鏡ホルダ 2 0 , 2 1 の焦準本体 1 0 への組付けは、取付け面 2 0 a に対して垂直な壁面 2 0 c 1 , 2 0 c 2 を利用して行なうため、複雑な加工を必要とせず、容易で確実な位置決めができる。

【 0 0 5 8 】

(第 2 の実施の形態)

図 7 は、本発明の第 2 の実施の形態に係る顕微鏡焦準装置の構成を示す概略側断面図である。図 7 において図 1 ～図 6 と同一な部分には同符号を付してある。

【 0 0 5 9 】

この顕微鏡焦準装置は、焦準本体 1 0 が背面に設けられた複数のネジ穴 1 2 e を用いて支持台 9 1 にボルト 9 2 で固定されており、顕微鏡ホルダ 2 1 は焦準本体 1 0 の焦準移動部 1 1 に取付けられている。

【 0 0 6 0 】

重量バランスバネユニット 3 0 は、焦準本体 1 0 の底面部に組付けて固定するベース 3 1 と、圧縮コイルバネ 3 2 の伸縮を案内するシャフト 3 3 と、シャフト 3 3 にねじ込まれバネ 3 2 を覆い隠すカバー 3 4 と、バネ 3 2 を挿入しその伸縮によりベース 3 1 に対して上下動可能な移動棒 3 5 とを有する。また顕微鏡ホルダ 2 1 は、重量バランスバネユニット 3 0 を挿入するための穴 2 1 f と、移動棒 3 5 の先端に接した状態で移動棒 3 5 と連動させるための移動棒受け 2 1 g とを有する。移動棒受け 2 1 g は、穴 2 1 f の上端部に形成されたネジ部にねじ込み

固定されている。移動棒受け 2 1 g の下端面は、重量バランスバネユニット 3 0 からのバランス力が作用するために移動棒 3 5 が当接する当接部 2 1 h となっている。

【 0 0 6 1 】

移動棒 3 5 の外径 3 5 a とカバー 3 4 の内径 3 4 a は摺動可能な嵌合径になっており、移動棒内 3 5 に挿入されたバネ 3 2 の伸縮により、移動棒 3 5 がカバー 3 4 の内径 3 4 a に添って上下動する。

【 0 0 6 2 】

移動棒 3 5 は、カバー 3 4 の先端部に設けられた絞り 3 4 b と移動棒 3 5 の外径 3 5 a 端面により上方向の移動が制限され、移動棒 3 5 の下端面とシャフト 3 3 のネジ端面により下方向の移動が制限されており、移動棒 3 5 の移動量を焦準本体 1 0 に取付けられた顕微鏡ホルダ 2 1 の上下移動量と一致させている。

【 0 0 6 3 】

また、移動棒 3 5 の側面には、移動棒 3 5 がスムーズに上下動するための空気逃げ 3 5 b が設けられている。

【 0 0 6 4 】

図 8 は、上記重量バランスバネユニット 3 0 の外観図であり、図 9 は焦準本体 1 0 の底面部での重量バランスバネユニット 3 0 の取付け状態を表す図である。

【 0 0 6 5 】

図 7、図 8、図 9 で示されるように、重量バランスバネユニット 3 0 のベース 3 1 は、焦準本体 1 0 に取付けるための取付け面 3 1 a、ボルト固定用穴 3 1 b、及び位置決めを行なう位置決め部 3 1 c 1、3 1 c 2 を有し、焦準本体 1 0 に設けられた取付け面 1 2 f、ネジ穴 1 2 g、及び位置決め部 1 2 h 1、1 2 h 2 を用いて、複数のボルト 3 6 により容易に着脱ができる構成となっている。

【 0 0 6 6 】

このように、重量バランスバネユニット 3 0 を顕微鏡ホルダ 2 1 と焦準本体 1 0 の間に組合わせることで、顕微鏡ホルダ 2 1 には上方向の力が作用し、その結果、顕微鏡ホルダ 2 1 と連結している焦準移動部 1 1 (図 5 参照) に加わる下方向の力量を軽減することができ、重量バランスを保つことができる。

【 0 0 6 7 】

また、図 8 の重量バランスバネユニット 3 0 は 2 つの摺動する移動枠 3 5 により構成されているが、必要とする重量バランスに応じて 1 つあるいは 3 つ以上でも構わない。さらに、顕微鏡ホルダ 2 0 にも上記同様に移動枠受け 2 1 g と穴 2 1 f を設けることで、重量バランスバネユニット 3 0 を組付けることができる。

【 0 0 6 8 】

以上のように本第 2 の実施の形態の顕微鏡焦準装置によれば、重量バランスバネユニット 3 0 を顕微鏡ホルダ 2 0, 2 1 と焦準本体 1 0 に対して着脱自在に組付けることができるため、顕微鏡ホルダ 2 0, 2 1 に積載される荷重（顕微鏡の重さ）に応じて力量の異なる重量バランスバネユニット 3 0 を選択して取付け、上記第 1 の実施の形態で述べた焦準機構によって規定される焦準本体 1 0 の許容荷重範囲内に調整することができる。このため、従来のように顕微鏡焦準装置の焦準本体 1 0 を積載荷重に応じて専用化することなく、安価に顕微鏡システムを構築することができる。

【 0 0 6 9 】

（第 3 の実施の形態）

図 1 0 は、本発明の第 3 の実施の形態に係る顕微鏡焦準装置の概略構成を示す図である。図 1 0 において図 1 ～図 9 と同一な部分には同符号を付してある。

【 0 0 7 0 】

この顕微鏡焦準装置は、図 1 等 に示した顕微鏡 1 と、この顕微鏡 1 を支持する顕微鏡ホルダ 2 0 （または 2 1 ）を上下動させ、標本 7 0 に焦点を合わせる焦準ハンドル本体 1 0 0 及びガイド部 2 0 0 （または 2 0 1 ）を有する。焦準ハンドル本体 1 0 0 とガイド部 2 0 0 （または 2 0 1 ）は、後述するように一体化されることで、上記焦準本体 1 0 と同じ構成をなす。なお、ガイド部 2 0 0 と 2 0 1 は、後述するように形状、寸法が異なる以外は同じ構成をなす。

【 0 0 7 1 】

焦準ハンドル本体 1 0 0 は、焦準ハンドル枠 1 2 0 、ハンドル回転軸部 1 4 、焦準ハンドル 1 6 を有する。焦準ハンドル枠 1 2 0 は、ガイド部 2 0 0 （または 2 0 1 ）を取付けるための取り付け面 1 2 1 、取り付け面 1 2 1 と直交する壁面

からなる位置決め部122、123、及び四つのザグリ穴124を有する。

【0072】

図11は、ガイド部200（または201）の構造を示す上側から見た概略断面図であり、図12はガイド部200（または201）の背面からみた外観図である。

【0073】

ガイド部200（または201）は、顕微鏡ホルダ20（または21）を支持して上下動する焦準移動部11と、この焦準移動部11を保持し案内するガイド枠210から構成されている。焦準移動部11の前面には、上記第1実施例と同様に顕微鏡ホルダ20（または21）を取付けるための取付け面11a、位置決め部11c、ネジ穴11bを有し、背面には、ラック230とストッパビス231が取付けられている。ラック230は、焦準移動部11に設けられた溝部232に当て付いて位置決めされ、ビス235にて焦準移動部11に固定されている。

【0074】

一方、ストッパビス231、231は、上下の位置関係をなして焦準移動部11にねじ込まれている。焦準移動部11は上記第1の実施の形態と同様に、焦準ハンドル16のピニオン14aの回転がラック230に伝わることで、上下方向に移動する。ストッパビス231、231は焦準移動部11に連動して作動し、ガイド枠210の上方または下方の壁面211、212に突き当たることで、焦準移動部11の移動ストロークを制限している。ガイド枠210の移動ストロークは、ストッパビス231、231の位置及びラック230長さを変えることにより、変更できる。すなわち、焦準ハンドル本体100を変更することなく、ガイド部200の変更のみで、ガイド枠210の移動ストロークを容易に変えることができる。

【0075】

ガイド枠210は、ガイド本体枠213と片ガイド枠214から構成され、いずれも円筒状のコロ13またはボールにより焦準移動部11を摺動させるためのガイド溝12aを形成している。また、片ガイド枠214はガイド本体枠213

にボルト 215 で固定されており、予圧調整されてガイド枠 210 が組立てられる。

【0076】

ガイド本体枠 213 には、ラック 230 の移動を確保するための長溝 216 が設けられ、長溝 216 の上下端面は、焦準移動部 11 の移動ストロークをストップビス 231、231 によって制限するための壁面 211、212 を有している。また、ガイド本体枠 213 の背面には、取り付け面 219、三つの位置決めピン 220、及び複数（八つ）のネジ穴 221 を有している。

【0077】

図 12 では焦準移動部 11 の移動を制限する壁面 211、212 が長溝 216 と共用されているが、上記長溝 216 とは別の長溝を形成し、その長溝に壁面 211、212 を設けてもよい。この場合、ストップビス 231、231 は、前記別の長溝内で上下方向に移動し、その長溝の上方または下方の壁面 211、212 に突き当たるよう、焦準移動部 11 にねじ込まれる。また、前記別の長溝を形成した場合は、一つのストップビス 231 が壁面 211、212 の双方に突き当たるよう構成してもよい。

【0078】

以下、ガイド部 200（または 201）と焦準ハンドル本体 100 の取り付け方法を説明する。ガイド部 200（または 201）背面の取り付け面 219 を焦準ハンドル本体 100 の取り付け面 121 に当て付け、焦準ハンドル枠 120 に設けられたザグリ穴 124 を介して、ボルト 125 により固定する。位置決めは、ガイド部 200（または 201）の各位置決めピン 220 の側部を焦準ハンドル枠 120 の位置決め部 122、123 の壁面に突き当てることで、容易かつ確実に行なうことができる。

【0079】

取付けるガイド部 200（または 201）の剛性は、ガイド溝 12a の肉厚 222、ガイド枠 210 の形状・寸法 223（肉厚）、予圧力量、ガイドの方式（コロ、ボール）、及び材質等のさまざまな要因に応じて変化させる。特に、ガイド溝 12a の肉厚 222 及びガイド枠 210 の形状・寸法 223（肉厚）を大きくす

ることは剛性の向上に効果がある。なお、図10に示すように、ガイド溝12aの肉厚222とガイド枠210の寸法223は、ガイド部200よりガイド部201の方が小さくなっている。

【0080】

このように、剛性が高く大きいガイド部200と、剛性は高くないが安価でコンパクトなガイド部201とを選択して焦準ハンドル本体100に取り付けることができるため、顕微鏡焦準装置としてユーザーの要求に幅広く対応できる。

【0081】

以上のように本第3の実施の形態の顕微鏡焦準装置によれば、ガイド部200、201を焦準ハンドル本体100に対して着脱自在にすることにより、剛性の異なるガイド部200、201を選択して焦準ハンドル本体100に組付けることができる。

【0082】

上記第1の実施の形態に示した顕微鏡ホルダ20は、積載する顕微鏡の重さが軽く、重心位置が焦準移動部11の移動軸224に対して比較的近距離にある。この顕微鏡ホルダ20に発生するモーメントは小さいため、ガイド部には高い剛性を必要としない。一方、上記第1の実施の形態に示した顕微鏡ホルダ21は、積載する顕微鏡の重さが重く、重心位置が焦準移動部11の移動軸224に対して遠距離にある。この顕微鏡ホルダ21には大きなモーメントが発生するため、ガイド部にはそのモーメントを許容できる高い剛性を必要とする。

【0083】

このように、顕微鏡焦準装置に対して顕微鏡ホルダの重心位置は各々異なる。その対応として、顕微鏡ホルダに応じて重量バランスバネユニット30を用意し、重心位置に当接させて配置し、上記モーメントの発生を防止することは、システム上困難である。

【0084】

以上のようなことから、ガイド部200、201を焦準ハンドル本体100に対して着脱自在にして、剛性の異なるガイド部200、201を選択可能とすることにより、積載する顕微鏡により重さと重心位置が大きく異なる場合において

も、専用の焦準本体 1 0 を用意することなく安価に対応できる。

【 0 0 8 5 】

(第 4 の実施の形態)

図 1 3 は、本発明の第 4 の実施の形態に係る顕微鏡焦準装置の概略構成を示す図であり、図 1 4 は、ガイド部 2 0 0 (または 2 0 1) と中間ギヤユニット 3 0 0 の構造を示す上側から見た概略断面図である。図 1 3, 図 1 4 において図 1 ~ 図 1 2 と同一な部分には同符号を付してある。なお、図 1 3 は図 1 0 と異なり、焦準ハンドル本体 1 0 0 の背面側から見た図である。

【 0 0 8 6 】

この顕微鏡焦準装置は、上記第 3 の実施の形態に示した顕微鏡焦準装置の焦準ハンドル本体 1 0 0 とガイド部 2 0 0 (または 2 0 1) の間に中間ギヤユニット 3 0 0 が組付けられている。

【 0 0 8 7 】

中間ギヤユニット 3 0 0 は、大歯車 3 1 1 と小歯車 3 1 2 からなる中間ギヤ 3 1 0、ギヤ軸 3 1 3、及び軸受け 3 1 7 から構成されている。ギヤ軸 3 1 3 は一端がビス 3 1 5 にて保持枠 3 3 0 に固定され、他端がビス 3 1 6 にて軸受け 3 1 7 と連結されている。中間ギヤ 3 1 0 はギヤ軸 3 1 3 の軸 3 1 8 に対して回転可能に保持され、端面 3 1 9、3 2 0 によって左右方向の位置が制限されている。

【 0 0 8 8 】

ギヤ軸 3 1 3 と連結している軸受け 3 1 7 はビス 3 1 5 にて保持枠 3 3 0 に固定されている。ギヤ軸 3 1 3 は、焦準ハンドル 1 6 のピニオン 1 4 a の回転が中間ギヤ 3 1 0 を介してガイド部 2 0 0 (または 2 0 1) のラック 2 3 0 に伝わるように配置されている。

【 0 0 8 9 】

また、中間ギヤユニット 3 0 0 を挿入しない場合においても、上記ピニオン 1 4 a の回転がラック 2 3 0 に伝わるように、取り付け面 3 3 1 からピニオン 1 4 a の歯部までの距離 3 3 2 と、取り付け面 3 3 3 からラック 2 3 0 の歯部までの距離 3 3 4 を一致させている。

【 0 0 9 0 】

以下、図13を基に中間ギヤユニット300と焦準ハンドル本体100とガイド部200（または201）の取り付け方法を説明する。中間ギヤユニット300の保持枠330は、取り付け面331、333、位置決め部334、335、三つの位置決めピン336、四つのビス穴337、及び四つのザグリ穴338を有する。

【0091】

ガイド部200（または201）に中間ギヤユニット300を取付ける際には、ガイド部200（または201）の位置決め各ピン220をそれぞれ位置決め部334、334、335に突き当てて位置決めし、ガイド部200（または201）の取り付け面219に取り付け面333を接触させ、ザグリ穴338を介してボルト339により固定する。

【0092】

一方、焦準ハンドル本体100に中間ギヤユニット300を組付ける際には、ガイド部200（または201）の取り付け方法と同様に、中間ギヤユニット300の各位置決めピン336の側部を位置決め部122、123の壁面に突き当てて位置決めする。そして、取り付け面331を焦準ハンドル本体100の取り付け面121に接触させ、焦準ハンドル本体100に設けられたザグリ穴124を介して、ボルト340により固定する。

【0093】

以上のように本第4の実施の形態の顕微鏡焦準装置によれば、焦準ハンドル本体100とガイド部200（または201）の間に中間ギヤユニット300を着脱自在とすることにより、中間ギヤユニット300を変更することで、焦準ハンドル16の1回転当たりの焦準移動部11の移動量を容易に変化させることができる。また中間ギヤユニット300は、保持枠330と中間ギヤ310を備えた簡易な構成をなすため、安価に製作できる。

【0094】

図15の（a）は、上記各実施の形態に示した顕微鏡焦準装置を各種装置に適用した構成を示す側面図、図15の（b）は概略平断面図である。図15の（a）、図15の（b）において図1と同一な部分には同符号を付してある。焦準本

体10の背面101には、複数のネジ穴12eが設けられており、装置400の支持部400aにも複数のネジ穴401が設けられている。また、焦準本体10を装置400に装着する際に用いる止め板500には、ネジ穴12eとネジ穴401にそれぞれ適合する複数の穴501と穴502が設けられている。

【0095】

焦準本体10を装置400に装着する場合、まず止め板500を焦準本体10の背面101に接触させ、焦準本体10の各ネジ穴12eと止め板500の各穴501を用いて、各ボルト503で固定をする。次に、止め板500を装置400の支持部400aに接触させ、装置400の各ネジ穴401と止め板500の各穴502を用いて、各ボルト504で固定をする。

【0096】

このように、止め板500を介してネジ穴とボルトを用いることにより、焦準本体10を装置などの相手部品に直接組付けて使用することができる。なお、焦準本体10を組付ける装置としては、ウエハや液晶基板などの検査装置や観察装置が適用可能である。

【0097】

本発明の顕微鏡焦準装置によれば、以下のような作用効果を奏する。

【0098】

本発明の顕微鏡焦準装置によれば、投光装置を備えた顕微鏡を支持し、前記顕微鏡を上下動させて標本に焦点を合わせるための焦準本体を備えた顕微鏡焦準装置において、前記顕微鏡を支持するためのホルダをユニット化して前記焦準本体に容易に取付け、取外しをすることができるため、前記焦準本体を専用化またはコストアップすることなく、取付け形状の異なる顕微鏡を組付けることができる。また、前記ホルダの大きさ、長さを変化させることで、顕微鏡焦準装置をスタンドあるいは組付け装置に固定した状態のまま、顕微鏡の光軸位置を要求に応じて変えることもできる。

【0099】

また、顕微鏡を支持するホルダを着脱自在に焦準本体に取付けることにより、前記顕微鏡の取付け方法が異なる場合においても、取付け可能な形状のホルダを

選択することで、前記顕微鏡を前記焦準本体に組付けることができる。

【0100】

本発明の顕微鏡焦準装置によれば、ホルダの焦準移動部への組付けは、各々の取付け面に対して垂直な壁面を利用することで、容易に位置決めが行なえ、また上述した従来のスライドアリ加工を必要とせず、安価に対応できる。

【0101】

本発明の顕微鏡焦準装置によれば、ホルダに重量バランスを保つための弾性部材を後付けユニットとして組付けることで、顕微鏡の重さが大きく異なる場合においても、焦準移動方向に加わる荷重をその能力にあった最適な荷重に調整することができる。

【0102】

本発明の顕微鏡焦準装置によれば、ガイド部を前記焦準ハンドル本体に対して着脱自在にすることで、顕微鏡の重さと重心位置が大きく異なる場合においても、ガイド部に加わるモーメントの大きさに応じて、剛性の異なるガイド部を選択して対応することができる。また、ガイド部はホルダと別体であるため、安価に製作できる。

【0103】

本発明の顕微鏡焦準装置によれば、ガイド部と焦準ハンドル本体の間に中間ギヤを後付けユニットとして組み込むことにより、焦準ハンドルの減速比を選択することができる。ガイド部と焦準ハンドル本体は別体で、独立しているため、容易な構造で安価に中間ギヤを挿入することができる。

【0104】

本発明の顕微鏡焦準装置によれば、投光装置を備えた顕微鏡を支持し、前記顕微鏡を上下動させて標本に焦点を合わせるための焦準本体を備えた顕微鏡焦準装置において、前記顕微鏡を支持するためのホルダをユニット化して前記焦準本体に容易に取付け、取外しをすることができるため、前記焦準本体を専用化またはコストアップすることなく、取付け形状の異なる顕微鏡を組付けることができる。また、前記ホルダの大きさ、長さを変化させることで、顕微鏡焦準装置をスタンドあるいは組付け装置に固定した状態のまま、顕微鏡の光軸位置を要求に応じ

て変えることもできる。

【0105】

また、本発明の顕微鏡焦準装置によれば、ホルダの焦準移動部への組付けに際し、各々の取付け面に対して垂直な壁面を利用して位置決めをするため、複雑な加工を必要とせず安価で、かつ容易で確実な取付けを行なうことができる。さらに前記ホルダは、顕微鏡をコンパクトに支持できる丸アリ支持形状と汎用性のある壁面支持形状とを選択できるため、システム性が向上し、ユーザーの要求に幅広く対応できる。

【0106】

また、本発明の顕微鏡焦準装置によれば、重量バランスを保つために、力量の異なる弾性部材を選択し、後付けユニットとしてホルダと焦準本体に組付けることで、前記焦準本体に加わる荷重を許容範囲内に調整することができるため、顕微鏡の種類やユニットの付属による積載荷重の変化に対しても、それに適した焦準本体を用意する必要がなく、安価に対応することができる。

【0107】

また、本発明の顕微鏡焦準装置によれば、焦準ハンドル本体とガイド部を着脱可能とすることで、異なる剛性のガイド部を容易に選択できるため、顕微鏡の重さと重心位置の変化に対して、専用の焦準本体を用意することなく、安価に幅広いシステムに対応できる。また、ガイド部は単体で独立しているため、移動ストロークの変更は、焦準ハンドル本体を変えることなく安価に容易に対応できる。さらに、ガイド部は顕微鏡ホルダに対して着脱自在であるため、顕微鏡ホルダを変えずに、ガイド部のみを交換することができるため、ガイド部の変更を安価に行なえる。

【0108】

また、本発明の顕微鏡焦準装置によれば、焦準ハンドル本体とガイド部の間に中間ギヤユニットを後付けユニットとして選択して組み付けることで、専属化した焦準本体を用意することなく、焦準ハンドル1回転当たりの移動量の変更を安価に行なえる。

【0109】

以上のように本発明によれば、標本を照明する投光装置を備えた顕微鏡の取付け形状に対して幅広く安価に対応できる顕微鏡焦準装置を提供できる。また本発明によれば、標本を照明する投光装置を備えた顕微鏡の重さと重心位置に対して幅広く安価に対応できる顕微鏡焦準装置を提供できる。また本発明によれば、標本を照明する投光装置を備えた顕微鏡の焦準ハンドルの減速比を容易かつ安価に選択できる顕微鏡焦準装置を提供できる。すなわち本発明によれば、取付ける顕微鏡に対して幅広く安価に対応できる顕微鏡焦準装置を提供できる。

【 0 1 1 0 】

本発明は、以下の構成を有する。

【 0 1 1 1 】

[1] . 投光装置と、対物レンズと、鏡筒と、これら全てを保持するホルダと、直線的に上下動する焦準移動部を備えた焦準本体と、前記焦準移動部に形成され前記ホルダを固定するための取付け部と、備え、

前記ホルダは、前記投光装置を支持する第 1 の支持部を観察光軸の軸上に備えた第 1 のホルダ及び前記投光装置を支持する第 2 の支持部を前記観察光軸の軸外に備えた第 2 のホルダの一方を選択的に前記取付け部に取付け可能とした顕微鏡焦準装置。

【 0 1 1 2 】

[2] . 前記第 1 の支持部は、前記投光装置を丸アリで支持する上記 [1] に記載の顕微鏡焦準装置。

【 0 1 1 3 】

[3] . 複数の前記対物レンズを切替え可能に保持するレボルバを更に備え、前記第 1 のホルダは、前記レボルバを取付けるアリを前記観察光軸の軸上に有する上記 [2] に記載の顕微鏡焦準装置。

【 0 1 1 4 】

[4] . 前記第 2 の支持部は、前記焦準本体を四つのボルトで支持する上記 [1] に記載の顕微鏡焦準装置。

【 0 1 1 5 】

[5] . 前記投光装置に、複数の前記対物レンズを切替え可能に保持するレボ

ルバが取付けられた上記〔４〕に記載の顕微鏡焦準装置。

【 0 1 1 6 】

〔 6 〕．前記ホルダと前記焦準移動部は、各々が取付け面を有し、前記各取付け面に対してそれぞれ垂直な各壁面同士による当て付けにより位置決めされ、組付けられる上記〔 1 〕に記載の顕微鏡焦準装置。

【 0 1 1 7 】

〔 7 〕．前記ホルダと前記焦準本体の間に弾性部材を備え、
前記弾性部材は、前記ホルダにかかる荷重に応じて選択的に着脱可能とした上記〔 1 〕に記載の顕微鏡焦準装置。

【 0 1 1 8 】

〔 8 〕．固定部と、上下可動部と、この上下可動部を上方向に付勢する弾性部材とを有し、前記固定部が前記焦準本体に着脱自在に固定される重量バランス部を備えるとともに、

前記ホルダは、前記重量バランス部の前記上下可動部に当接して前記上方向の付勢力の作用を受ける当接部を更に備え、

前記顕微鏡の種類に応じて前記弾性部材の付勢力を選択可能とする上記〔 7 〕に記載の顕微鏡焦準装置。

【 0 1 1 9 】

〔 9 〕．前記重量バランス部は、前記固定部に対する前記上下可動部の移動範囲を規定するストッパを更に備えている上記〔 8 〕に記載の顕微鏡焦準装置。

【 0 1 2 0 】

〔 1 0 〕．前記焦準本体は、ガイド部と焦準ハンドル本体に分離され、
前記ガイド部を選択可能とした上記〔 1 〕に記載の顕微鏡焦準装置。

【 0 1 2 1 】

〔 1 1 〕．前記ガイド部は、前記焦準移動部と前記焦準移動部の枠とから構成され、

前記焦準ハンドル本体は、焦準ハンドルと前記焦準ハンドルの枠とから構成される上記〔 1 0 〕に記載の顕微鏡焦準装置。

【 0 1 2 2 】

〔 1 2 〕 . 前記ガイド部と前記焦準ハンドル本体の間に中間ギヤ部を着脱可能に設けた上記〔 1 0 〕に記載の顕微鏡焦準装置。

【 0 1 2 3 】

〔 1 3 〕 . 投光装置と、対物レンズと、鏡筒と、これら全てを保持するホルダと、直線的に上下動する焦準移動部を備えた焦準本体と、前記焦準移動部に形成された取付け部と、を備え、

前記ホルダは、前記取付け部に着脱可能に取付けられて固定され、前記投光装置の種類に応じて交換可能である顕微鏡焦準装置。

【 0 1 2 4 】

〔 1 4 〕 . 上記〔 1 〕に記載の顕微鏡焦準装置を有する顕微鏡。

【 0 1 2 5 】

なお、本発明は上記各実施の形態のみに限定されず、要旨を変更しない範囲で適宜変形して実施できる。

【 0 1 2 6 】

【発明の効果】

本発明によれば、取付ける顕微鏡に対して幅広く安価に対応できる顕微鏡焦準装置を提供できる。

【図面の簡単な説明】

【図 1】

本発明の実施の形態に係る顕微鏡焦準装置の概略構成を示す側面図。

【図 2】

本発明の実施の形態に係る顕微鏡焦準装置の概略構成を示す正面図。

【図 3】

本発明の実施の形態に係る焦準本体の上側から見た概略断面図及び顕微鏡ホルダの取付け部形状を示す図。

【図 4】

本発明の実施の形態に係る顕微鏡ホルダの概略側断面図。

【図 5】

本発明の実施の形態に係る顕微鏡ホルダと焦準本体及び投光装置との組付け状

態を示す図。

【図 6】

本発明の実施の形態の変形例に係る顕微鏡焦準装置における顕微鏡ホルダと投光装置との組付け状態を示す図。

【図 7】

本発明の実施の形態に係る顕微鏡焦準装置の構成を示す概略側断面図。

【図 8】

本発明の実施の形態に係る重量バランスバネユニットの外観図。

【図 9】

本発明の実施の形態に係る焦準本体の底面部での重量バランスバネユニットの取付け状態を表す図。

【図 1 0】

本発明の実施の形態に係る顕微鏡焦準装置の概略構成を示す図。

【図 1 1】

本発明の実施の形態に係るガイド部の構造を示す上側から見た概略断面図。

【図 1 2】

本発明の実施の形態に係るガイド部の背面からみた外観図。

【図 1 3】

本発明の実施の形態に係る顕微鏡焦準装置の概略構成を示す図。

【図 1 4】

本発明の実施の形態に係るガイド部と中間ギヤユニットの構造を示す上側から見た概略断面図。

【図 1 5】

本発明の実施の形態に示した顕微鏡焦準装置を各種装置に適用した構成を示す側面図と概略平断面図。

【符号の説明】

1 … 顕微鏡

1 0 … 焦準本体

1 1 … 焦準移動部

- 1 1 a …取付け面
- 1 1 b …ネジ穴
- 1 1 c …位置決め部
- 1 1 c 1, 1 1 c 2 …壁面
- 1 1 d …面
- 1 1 e …ラック
- 1 2 …焦準本体枠
- 1 2 a …ガイド溝
- 1 2 b …穴
- 1 2 c …板バネ
- 1 2 d …ねじ穴
- 1 2 e …ネジ穴
- 1 2 f …取付け面
- 1 2 g …ネジ穴
- 1 2 h 1, 1 2 h 2 …位置決め部
- 1 3 …コロ
- 1 4 …ハンドル回転軸部
- 1 4 a …ピニオン
- 1 4 b …ピニオン軸
- 1 4 c …粗動回転軸
- 1 4 d …微動回転軸
- 1 4 e …回転支持枠
- 1 5 …ビス
- 1 6 …焦準ハンドル
- 1 6 a …粗動ハンドル
- 1 6 b …微動ハンドル
- 1 7 a …バネ
- 1 7 b …パッド
- 1 7 …粗動力量調整ハンドル

1 7 a … バネ
1 7 b … パッド
1 8 … 止め具
2 0 … 顕微鏡ホルダ
2 0 a … 取付け面
2 0 b … 固定用穴
2 0 c … 位置決め部
2 0 c 1, 2 0 c 2 … 壁面
2 0 d … 丸メスアリ
2 0 e … ネジ穴
2 0 f … クランプビス
2 0 g … スライドメスアリ
2 0 h … 突起
2 0 i … ネジ穴
2 0 j … クランプビス
2 1 … 顕微鏡ホルダ
2 1 a … 取付け面
2 1 b … ネジ穴
2 1 c … 位置決め部
2 1 d … 接触部
2 1 e … 突起部
2 1 f … 穴
2 1 g … 移動枠受け
2 1 h … 当接部
2 2 … ボルト
2 3 … ボルト
3 0 … 重量バランスバネユニット
3 1 … ベース
3 1 a … 取付け面

3 1 b … ボルト固定用穴
3 1 c 1, 3 1 c 2 … 位置決め部
3 2 … バネ
3 3 … シャフト
3 4 … カバー
3 4 a … 内径
3 4 b … 絞り
3 5 … 移動枠
3 5 a … 外径
4 0 … 投光装置
4 1 … 投光装置
4 1 a … 側面
4 1 b … 壁面
4 1 c … 固定用ザグリ
4 2 … ランプ光源
4 3 … ハーフミラー
4 4 … 電源ケーブル
4 5 … 電源部
5 0 … 対物レンズ
6 0 … レボルバ
7 0 … 標本
8 0 … 観察鏡筒
8 1 … 接眼レンズ
9 0 … スタンド
9 0 a … ボール
9 1 … 支持台
9 2 … ボルト
1 0 0 … ハンドル本体 1 0 0
1 2 0 … 焦準ハンドル枠

1 2 1 … 取り付け面
1 2 2, 1 2 3 … 位置決め部
1 2 4 … ザグリ穴
2 0 0, 2 0 1 … ガイド部
2 1 0 … ガイド枠
2 1 1, 2 1 2 … 壁面
2 1 3 … ガイド本体枠
2 1 4 … 片ガイド枠
2 1 5 … ボルト
2 1 6 … 長溝
2 2 0 … ピン
2 2 1 … ネジ穴
2 2 2, 2 2 3 … 肉厚
2 2 4 … 移動軸
2 3 0 … ラック
2 3 1 … ストップビス
2 3 2 … 溝部
3 0 0 … 中間ギヤユニット
3 1 0 … 中間ギヤ
3 1 1 … 大歯車
3 1 2 … 小歯車
3 1 3 … ギヤ軸
3 1 5 … ビス
3 1 6 … ビス
3 1 7 … 軸受け
3 1 8 … 軸
3 1 9, 3 2 0 … 端面
3 3 0 … 保持枠
3 3 1, 3 3 3 … 取り付け面

3 3 4, 3 3 5 …位置決め部

3 3 6 …位置決めピン

3 3 7 …ビス穴

3 3 8 …ザグリ穴

3 3 9 …ボルト

3 4 0 …ボルト

4 0 0 …装置

4 0 0 a …支持部

4 0 1 …ネジ穴

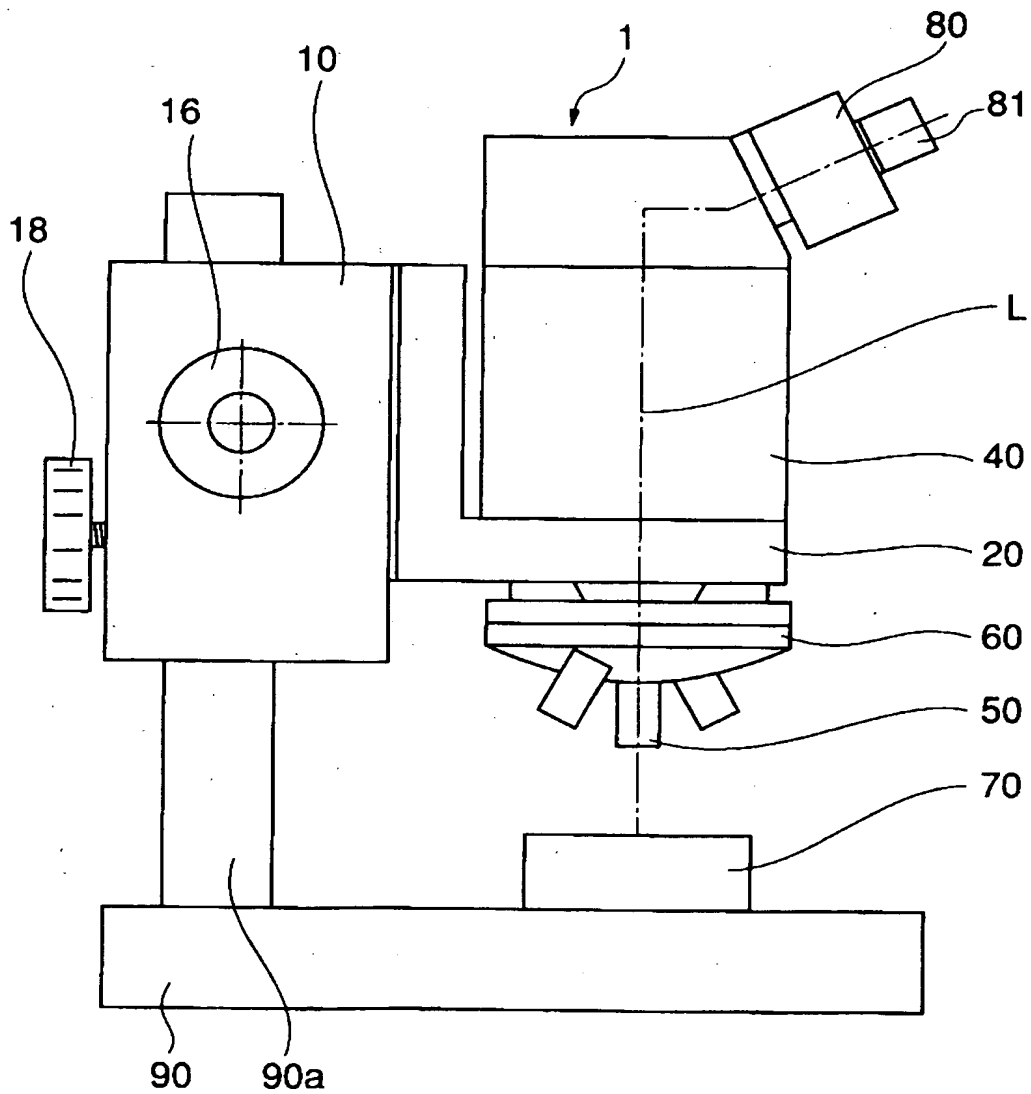
5 0 0 …止め板

5 0 1, 5 0 2 …穴

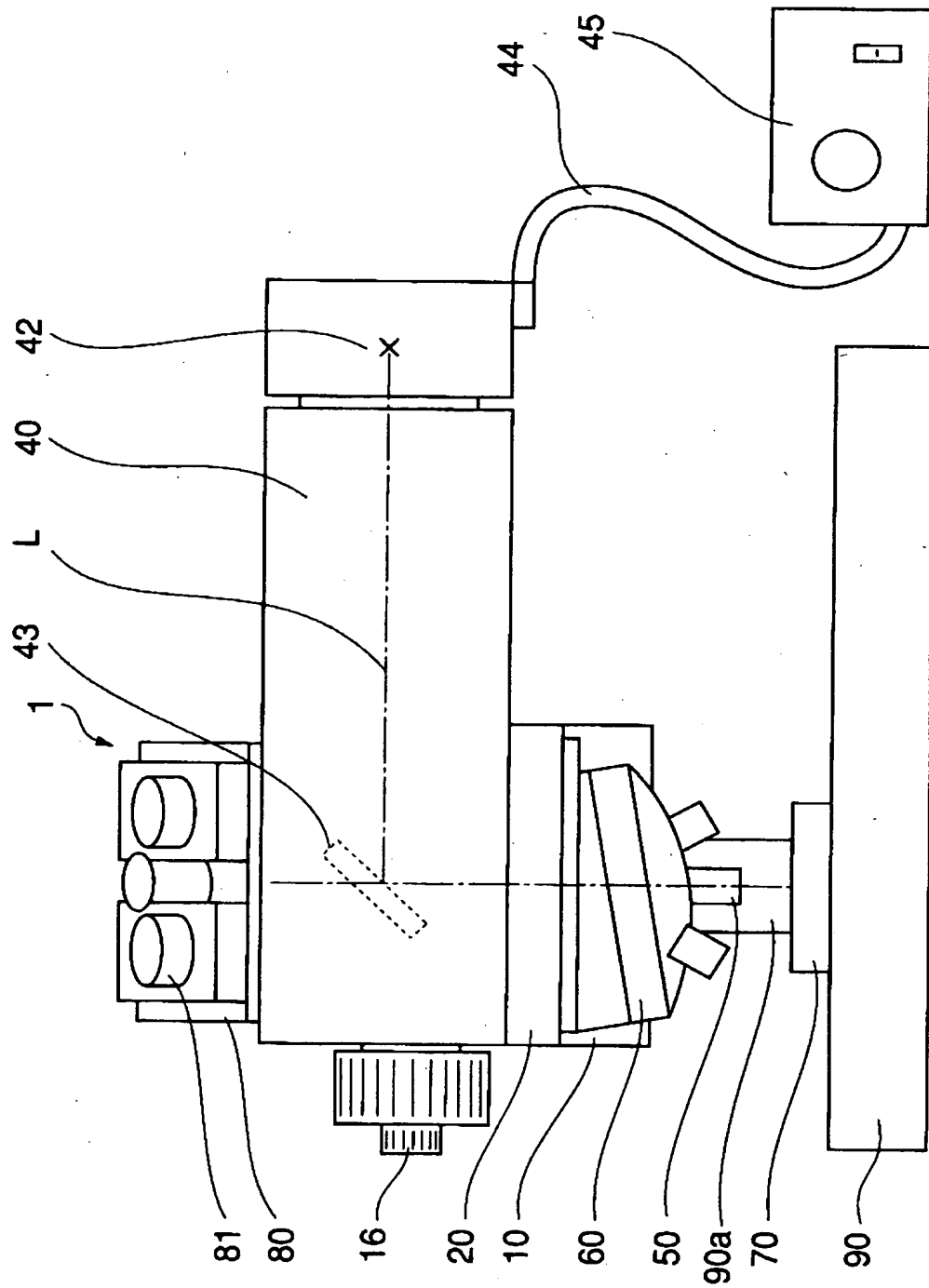
5 0 3, 5 0 4 …ボルト

【書類名】 図面

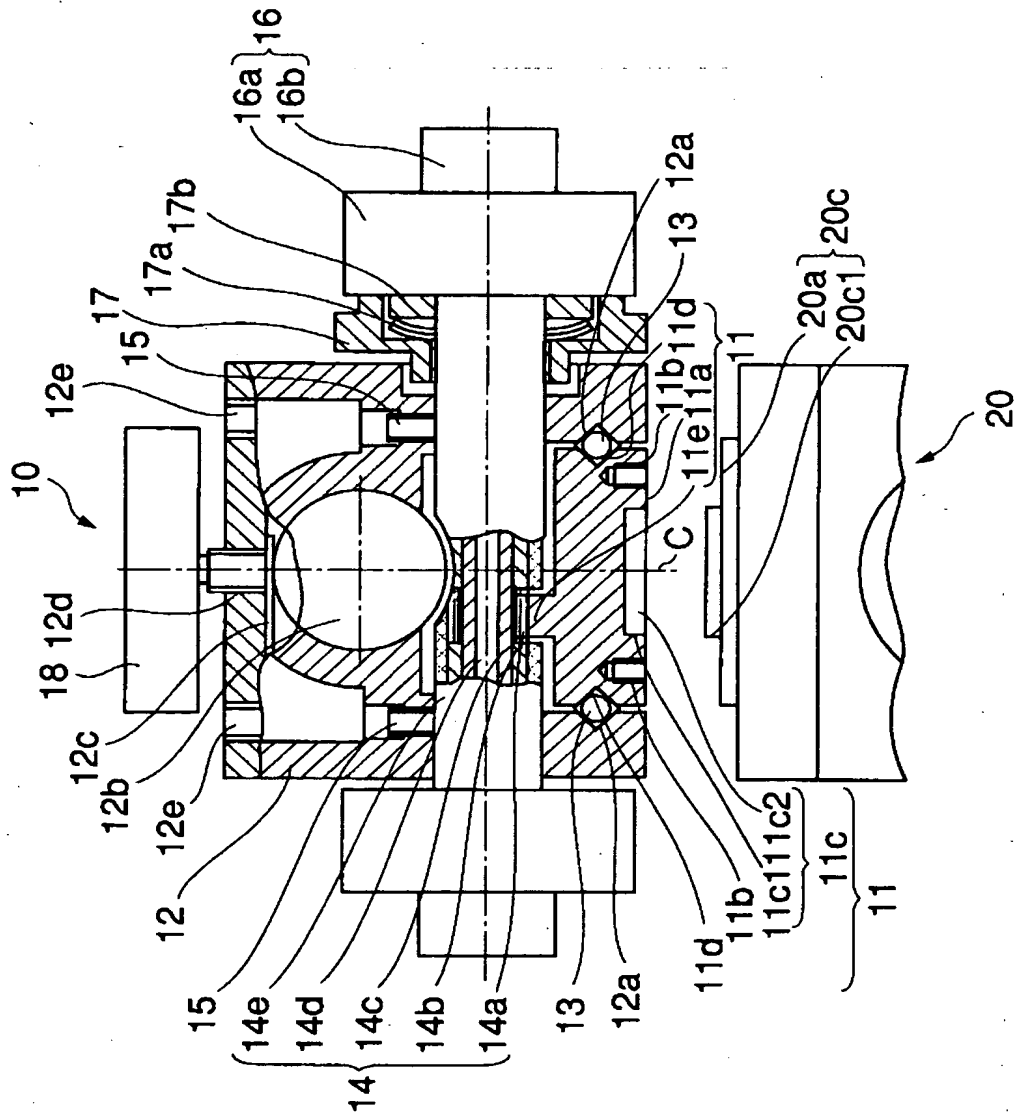
【図 1】



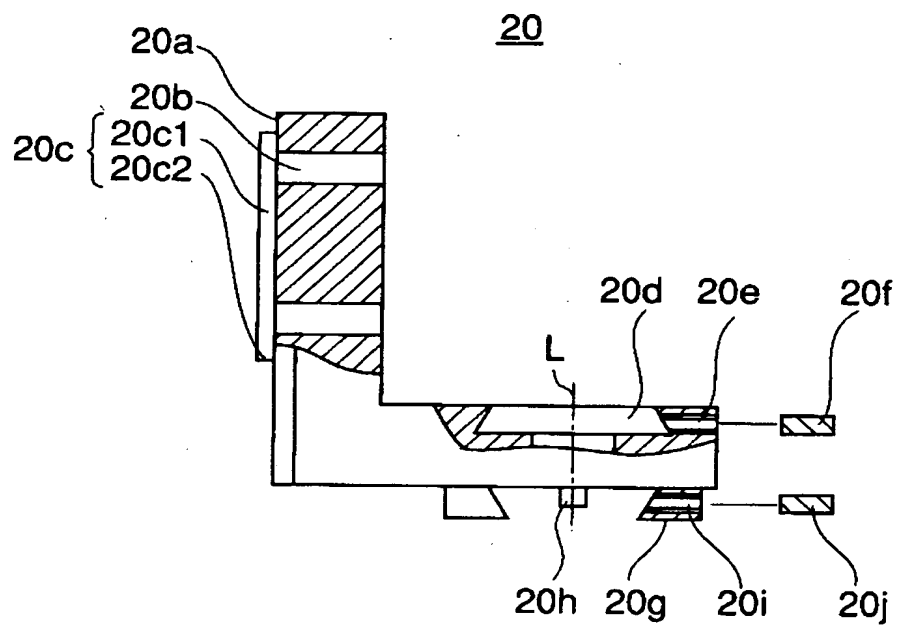
【図 2】



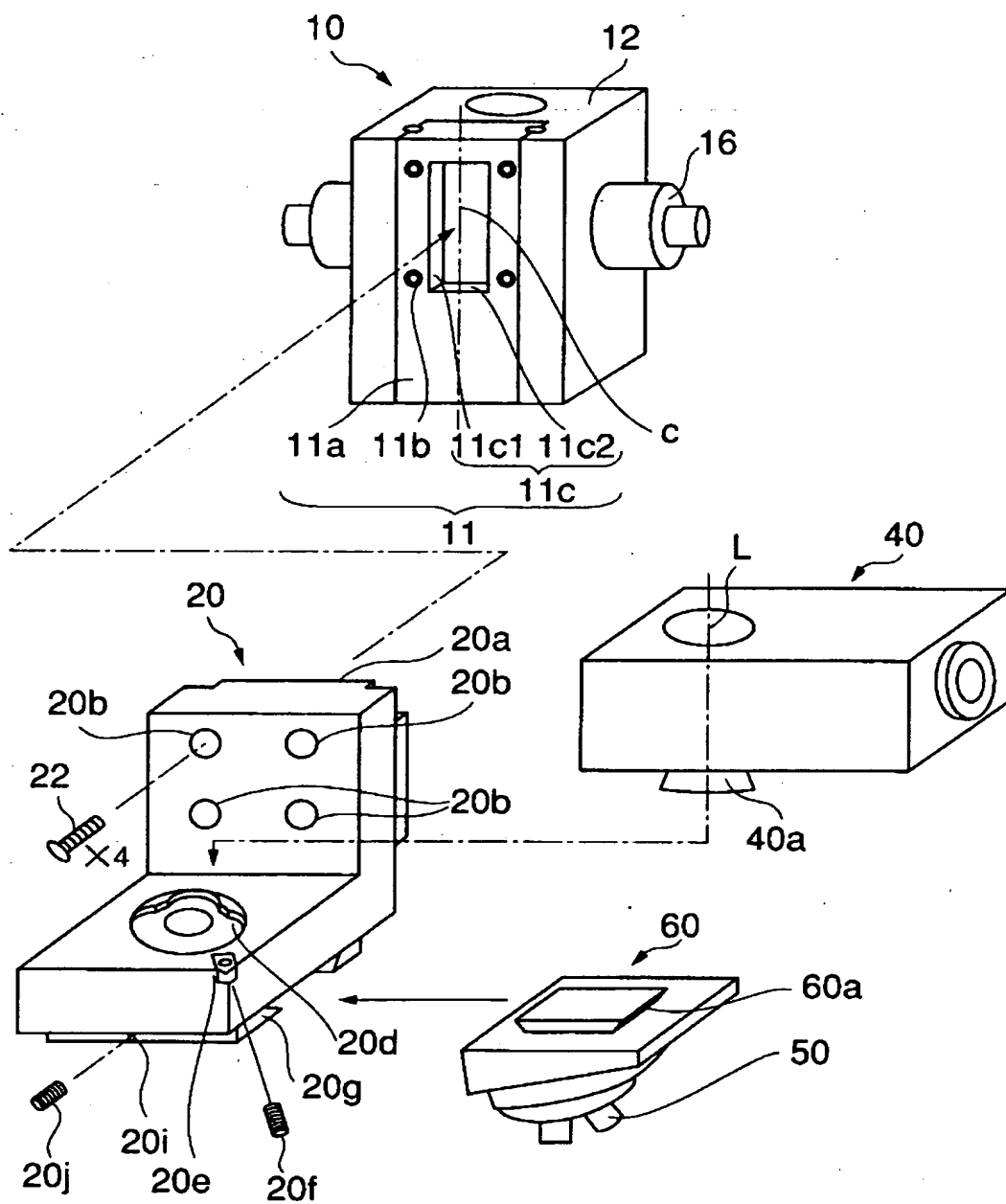
【図 3】



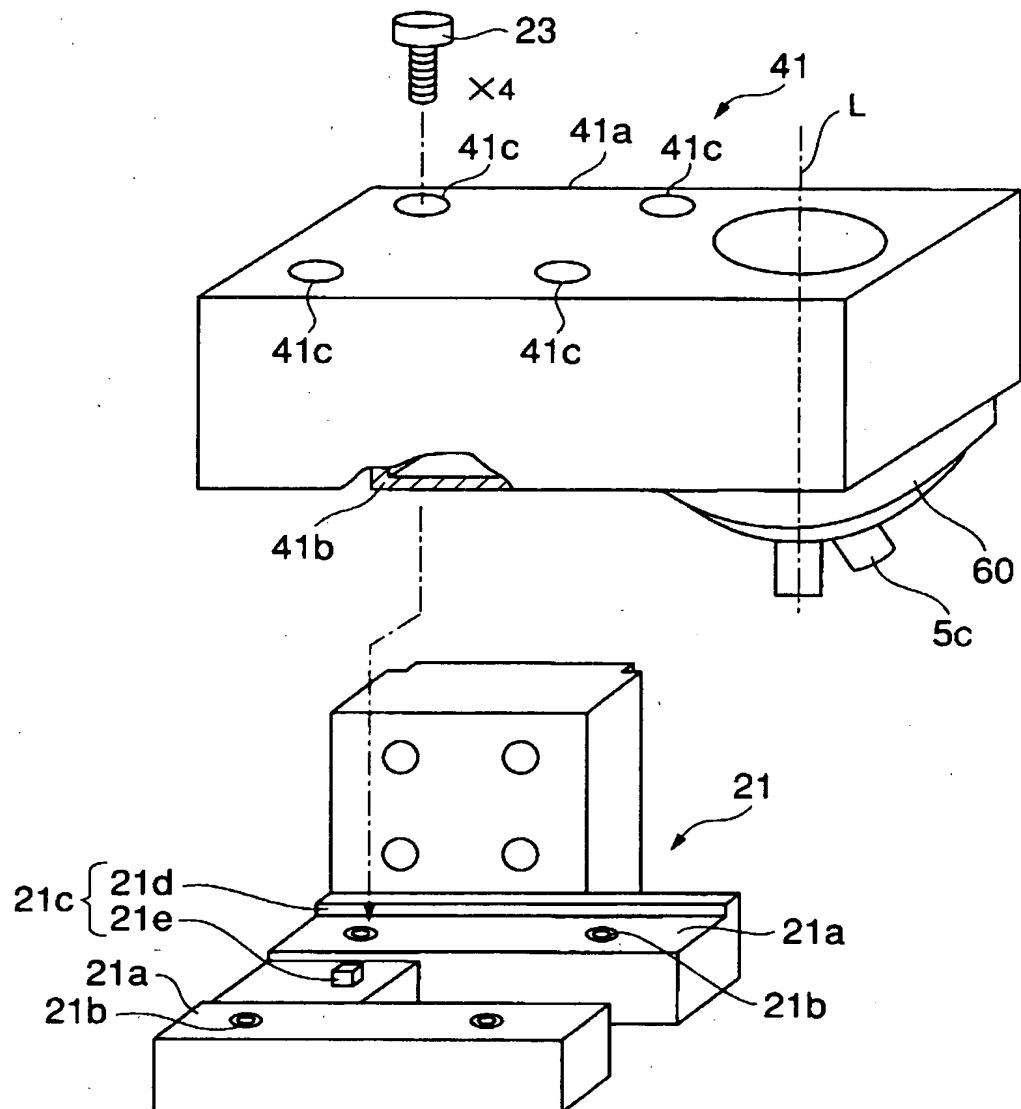
【図 4】



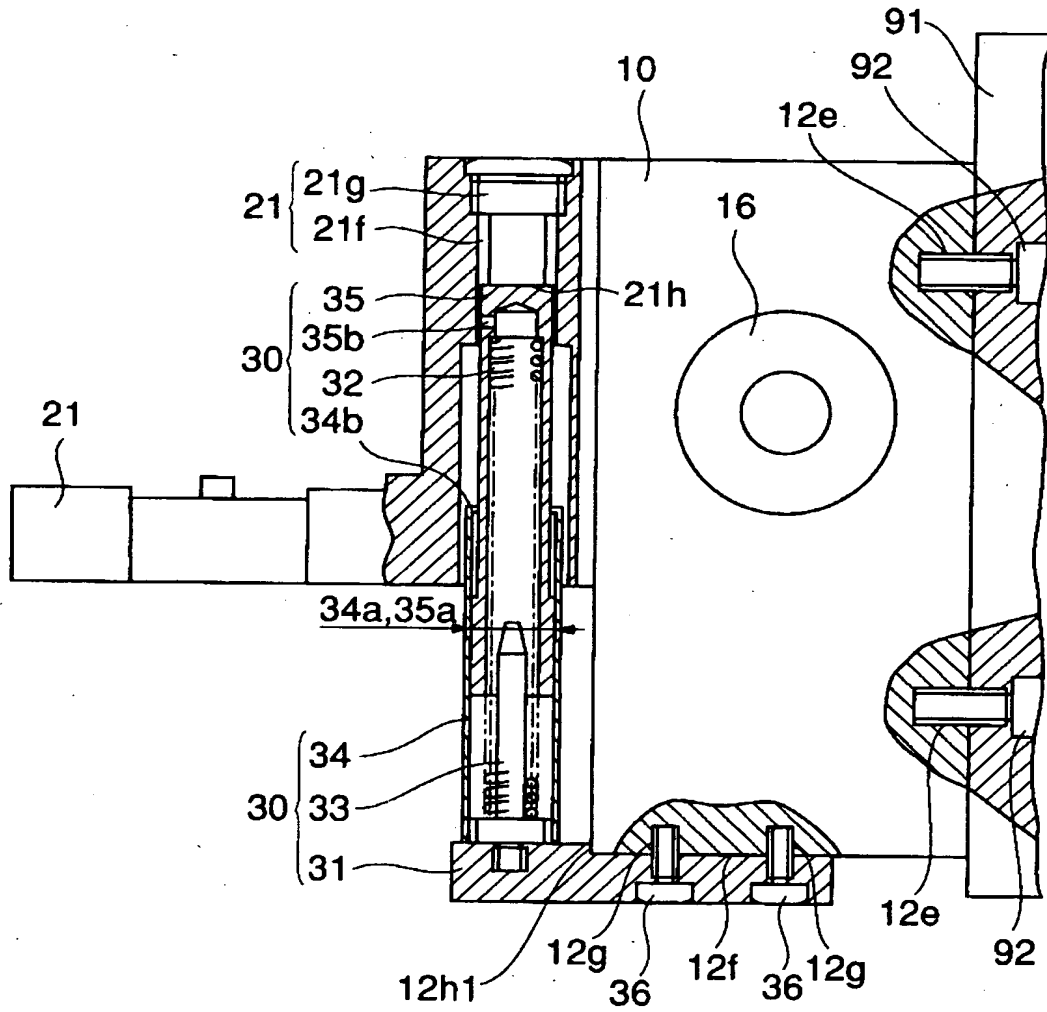
【図 5】



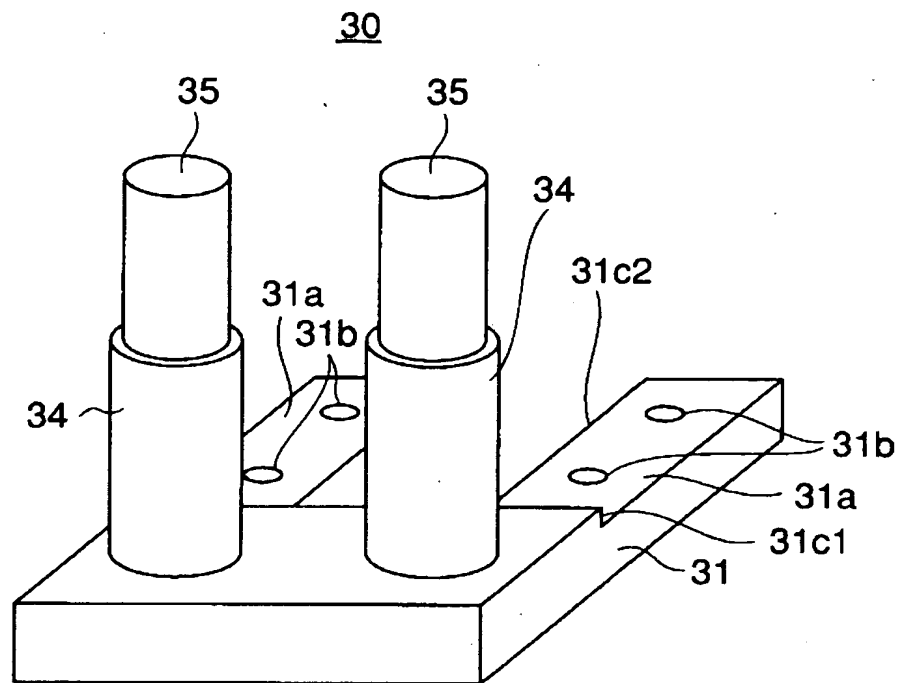
【図6】



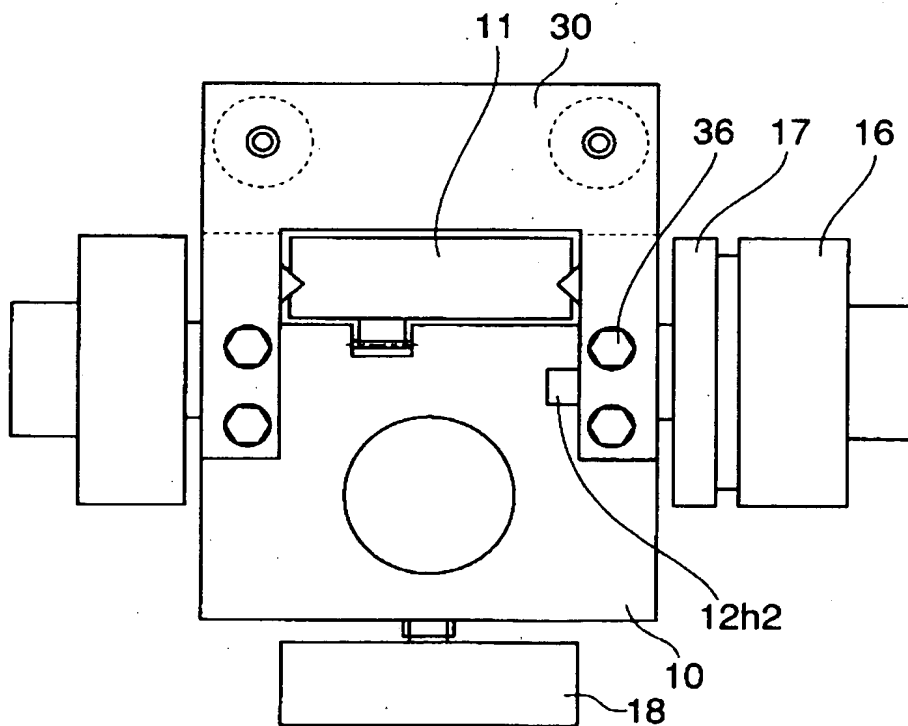
【図 7】



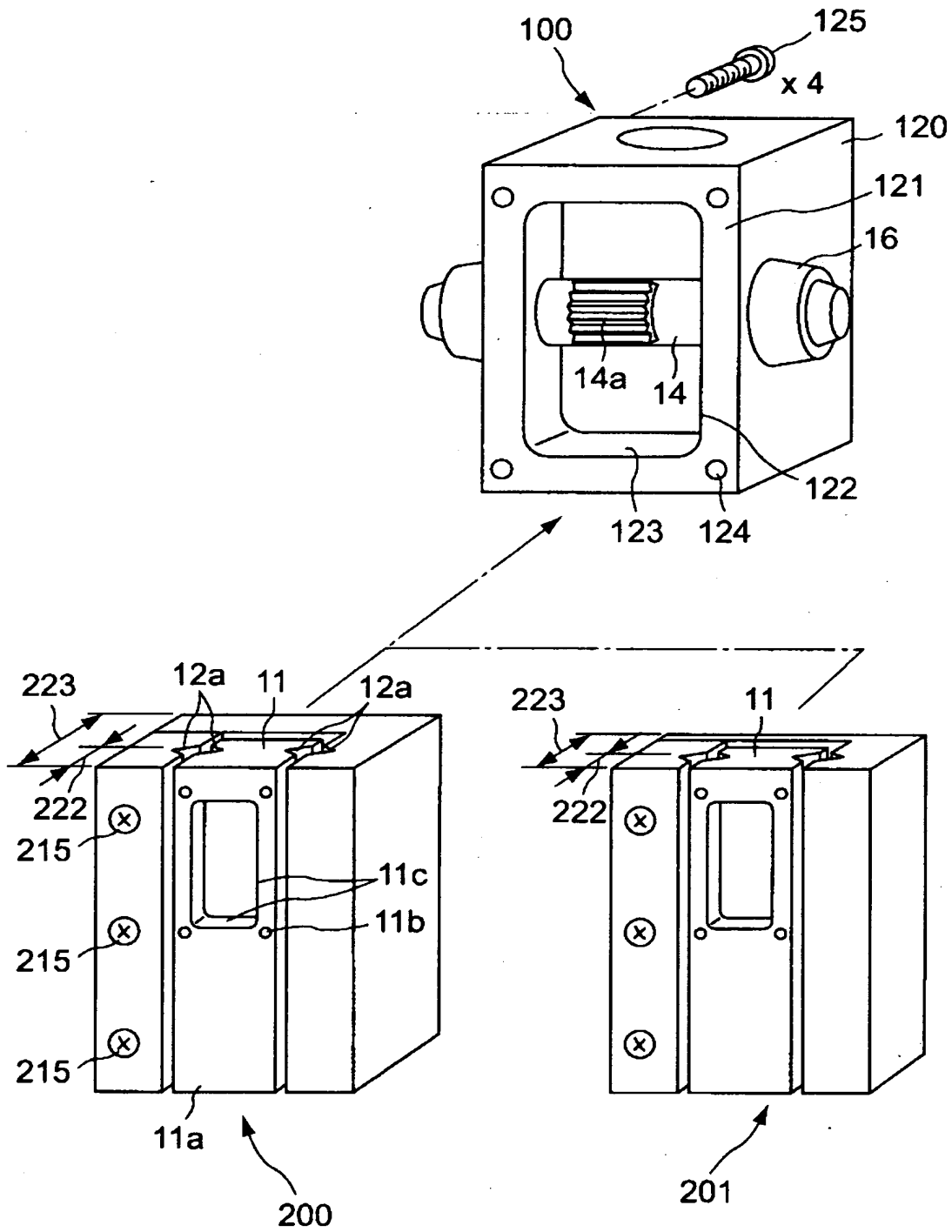
【図 8】



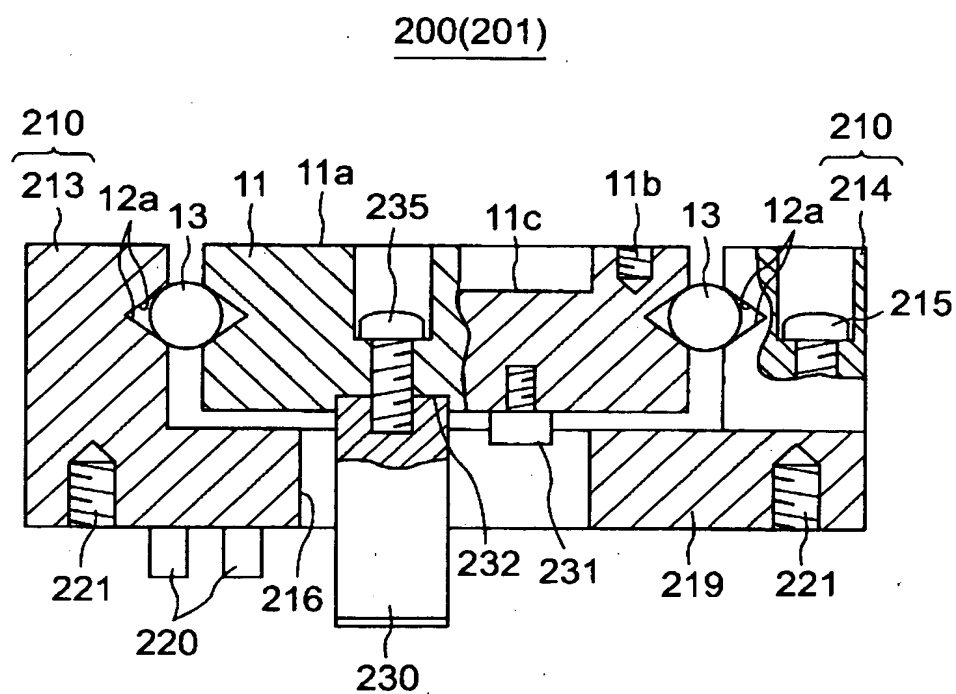
【図 9】



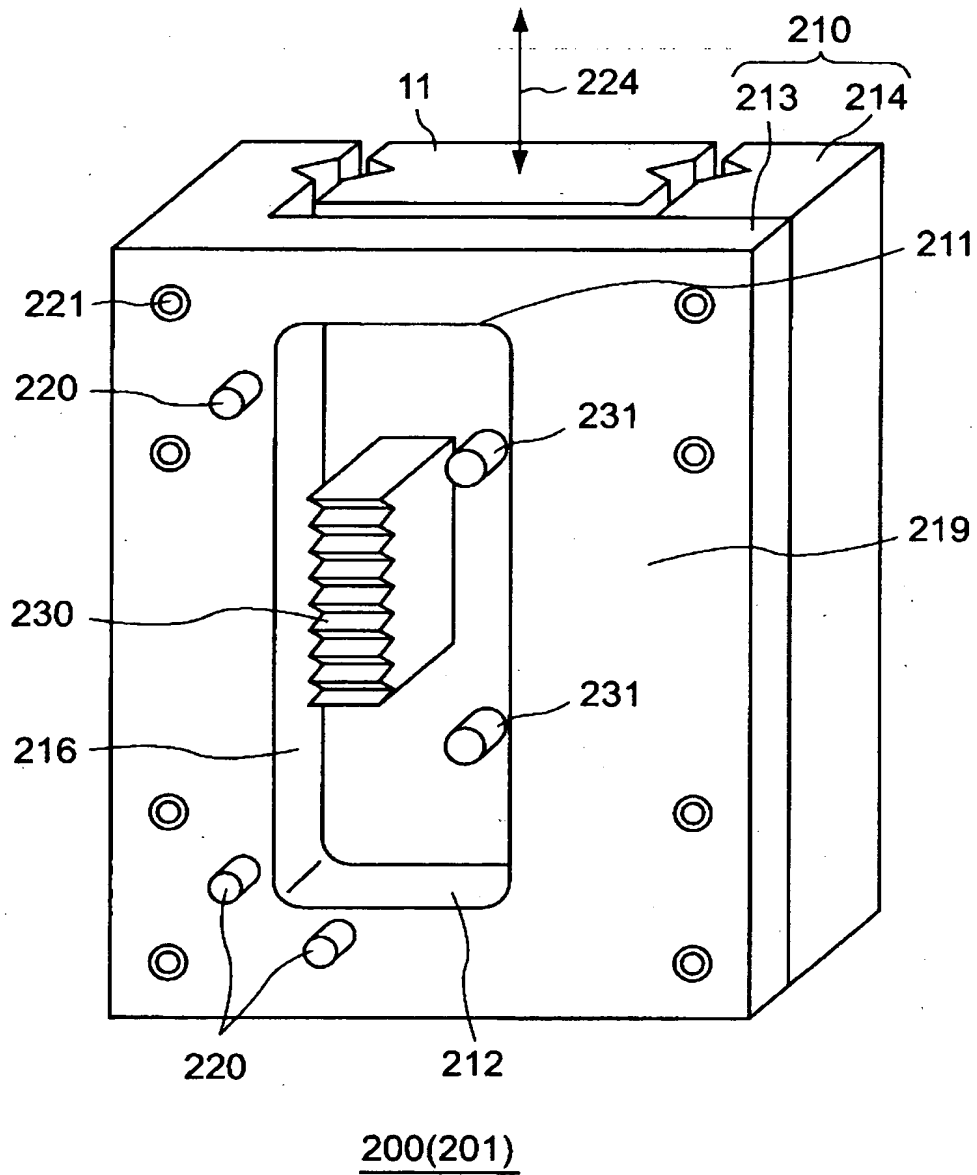
【図10】



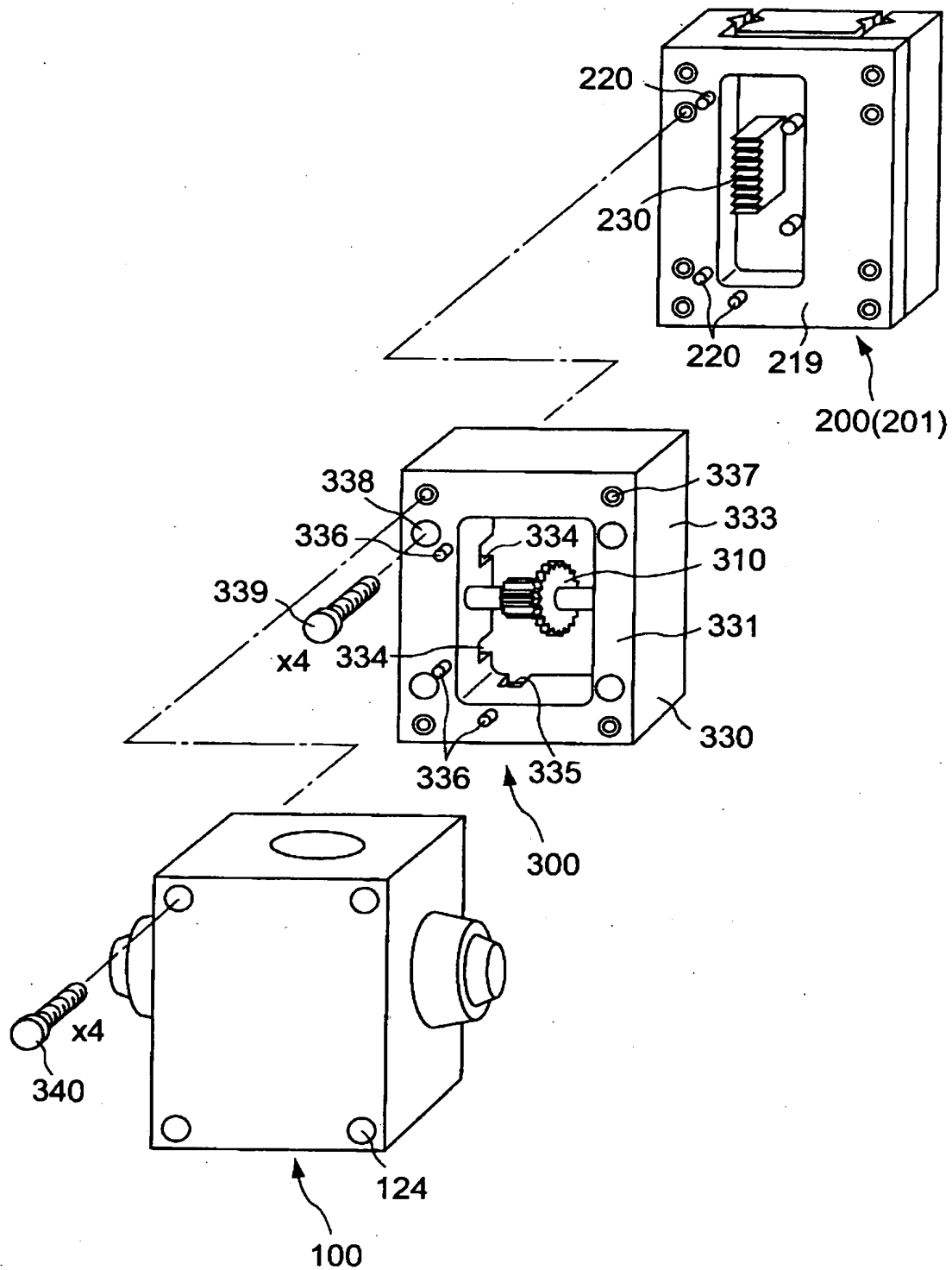
【図 11】



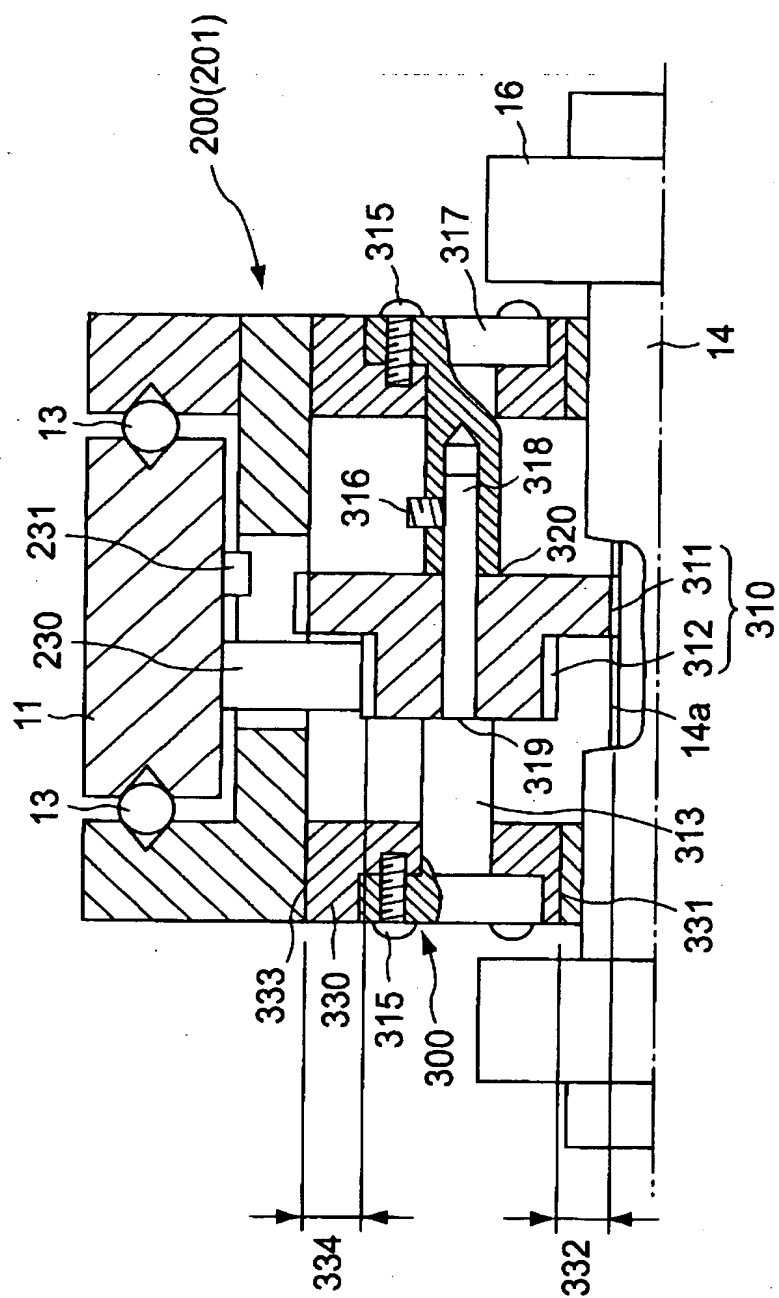
【図 12】



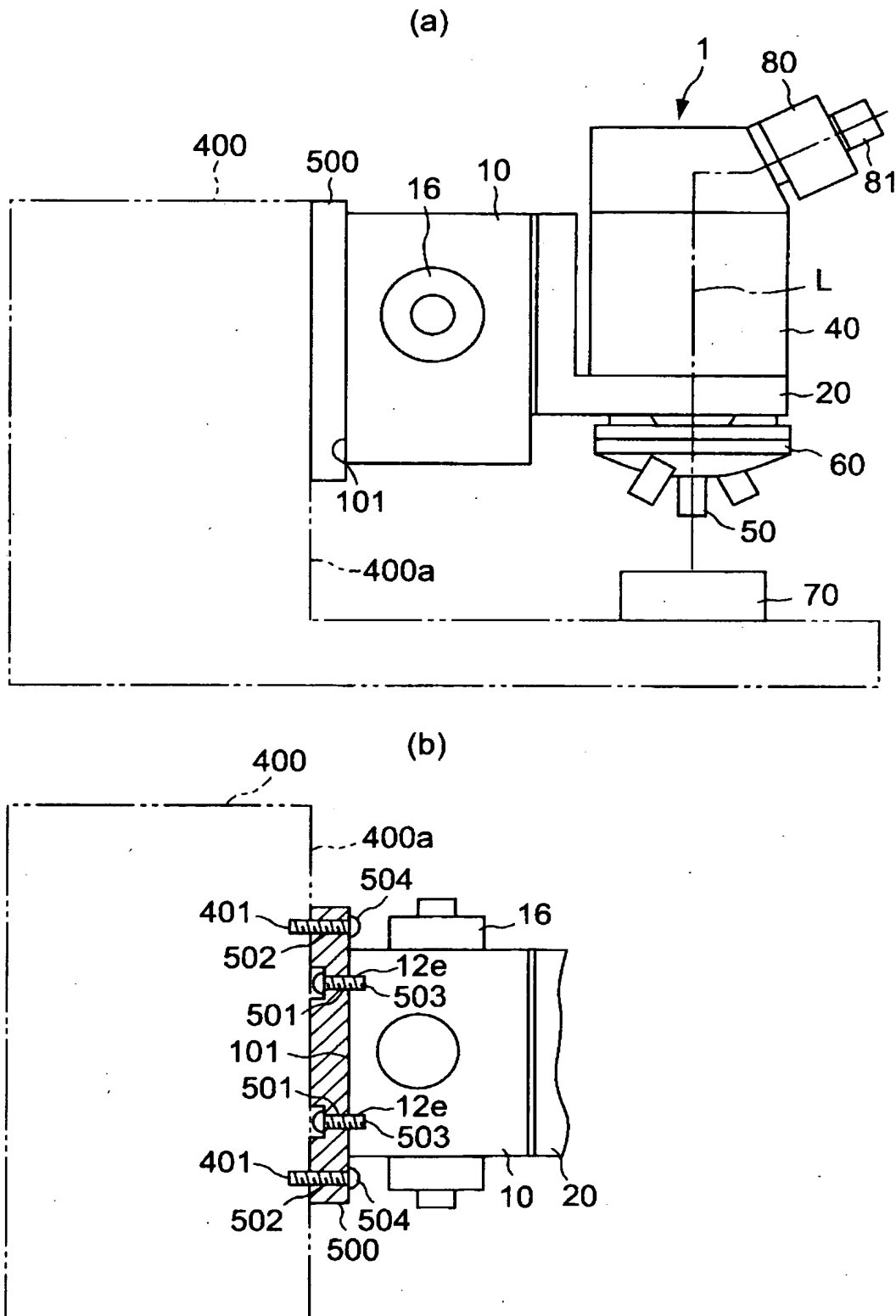
【図13】



【図 14】



【図 15】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 取付ける顕微鏡に対して幅広く安価に対応できる顕微鏡焦準装置を提供すること。

【解決手段】 投光装置（４０）と、対物レンズ（５０）と、鏡筒と、これら全てを保持するホルダ（２０）と、直線的に上下動する焦準移動部（１１）を備えた焦準本体（１０）と、前記焦準移動部（１１）に形成され前記ホルダ（２０）を固定するための取付け部（１１ａ）と、備え、前記ホルダ（２０）は、前記投光装置（４０）を支持する第１の支持部を観察光軸（Ｌ）の軸上に備えた第１のホルダ及び前記投光装置を支持する第２の支持部を前記観察光軸の軸外に備えた第２のホルダの一方を選択的に前記取付け部（１１ａ）に取付け可能とした。

【選択図】 図５

特2001-203058

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号 [000000376]

1. 変更年月日	1990年 8月20日
[変更理由]	新規登録
住 所	東京都渋谷区幡ヶ谷2丁目43番2号
氏 名	オリンパス光学工業株式会社